

5C1⑩キングダムセミナー20251018

賛美： 17:27.34

前半： 18:28.56

さあ、対面のみなさん、ラインのみなさん、こんにちは。

10月のセミナーを始めて行きましょう。

19:00.23

この第5クールは、今まで話してなかったことを付け加えてお話ししています。

どうですか皆さん、今日で、10回目です。本当は、お一人、お一人と、じっくり時間を取って話してみたいところなんですけれど・・・ね。

今パートIIのところをやっていますが、前回のところは、よろしいでしょうか？1回、1回を消化しながら、進めていただきたいんですけど、たまに、キングダムセミナーを聞くと、「えッ？」と思って、分かりづらいところがあるかも知れません。でも、急がなくて良いですからね。早く噛み砕いて、ぱっと飲み込んでいきたいという人には、キングダムセミナーは似合わないかもしれません。

ゆっくりと、進めていきたいと思います。20:47.05

さてさて、今日は、ページでいうなら **52 ページ**。【この啓示の根底にあるもの】というところからなんですけれど、その2段目の段落のところに、〈相互内在の真理の根底にある事柄とは一体何でしょう。〉と書いてあります。**《相互内在》**なんて言葉を初めて聞くようになった方々もいると思います。「《相互》、お互いの中に、お互いが内在する、住んでいるんですよ」という『真理』をいってます。これは、この通りの言葉が聖書にあるかということ、ないんですけど、聖書がいつている真理を、4つの熟語で端的に言い表した言葉なんです。

では、ここをちょっと読みます。

相互内在の真理の根底にある事柄とは一体何でしょう。聖書を開きながら掴んでいきたいと思います。私たちがキリストの中に在ることを述べている、**ローマ 6章**は、前回取り上げました。その前章、**ローマ 5章**が、そのことの現れている1つの箇所です。次のような言い方がされているのを何度もお読みになったと思います。いくつかあげてみます。

ローマ 5章 12節 [・・・ちょうど ひとりの人によって、罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、――それというのも、全人類が罪を犯したからです。]

・・・良く読んだことがある言葉だと思います。どうですか？この言葉。

もう一つ、次の言葉も読んでみましょう。・・・

ローマ 5章 15節[・・・もし、ひとりの違反によって、多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ち溢れるのです。]

・・・もう1つ、読みますよ。

ローマ 5章 17節[もし、ひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なお

5C1⑩キングダムセミナー20251018

さらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちであって支配するのです。]

・・・皆さん、意味を考えながらついてきてますか？もうちょっと読みます。53 ページ 2 段目

ここには、[ひとりの人によって、死が世界に入り・・・ひとりの人によって命が入った・・・]と、ひとりが全体を代表し、全体がひとりの行為に集約されているのがわかります。これが聖書が得意とする発想です。すなわち『神の世界』なのです。聖書はすべてこの『霊の現実』の上に書かれています。ですから、これがしっかりと受け止められるなら、『相互内在の関係が当然なこと』として受け止められます。

I コリント 15 章 22 節にも、次のようにあります。[アダムにあって(アダムの中で)、すべての人が死んでいるように、キリストによってキリストの中で、すべての人が活かされるからです。]

・・・これって、聖書が得意とする発想って、ここで言ってますけど、みなさん、わかったようで、いまいちでは、・・・あなたの発想ですかそうですか？ここがなんかね、「こうなんだよ」と言われたら、「・・・そうですか」と、言うしかないんだけど・・・。それで、[イエス様ひとりの中にあって、私たちは、恵みが満ちあふれている]というのは、ありがたいことなんですけど、ここ、どうでしょうか？

はい、ちょっと、本から目を離していただいて結構なんですけど、今日の内容、主題を前もって、ラインに書きました。【『神の国』の根底にある関係性を、もっと深く】というふうに書きました。そこから大体を心に描いていきましょう。27:07.47

それから、[神の国はここにあるそこにあるというものではない]とありますよね。[神の国は目に見えるように来るものではない。]とも言っておられますよね。だけど、当時のイエス様の周りにいた学者たちや指導者たちは、みんな「神の国はいつ来るのか、どのように来るのか。」と、それを実感として、目で見てわかることを望んでいました。ところがイエス様の神の国っていうのは、どうやら、そういうところを言っているんじゃない。というのは、分かりますよね。

「じゃあ、神の国っていうのは、何を言ってるんですか？」というのと、それが、キングダムセミナーの大テーマなんです。私達が追っかけている「神の国って何？」と。それは、これから何回か先に、神の国の意味を扱うところがあるんですけどね、そこになって、ようやく言われたんじゃあ、消化しづらいですから、前もって耳に入れておきましょう。・・・耳に入れるどころか、もう皆さんの現実ではあるんですけどね。『神の国』というのは、聖書の中の大きな、大きなテーマです。ですから、これが見えてきたら、我々は、成長していきます。29:29.83

この第 5 クールでも、初め、創世紀の 1 章から、3 章あたりまで、ゆっくりやりましたよね。私たちの神様は、私達を造るときに神は、人を『支配の対象』として造ったんではありませんということ。神様があなたを支配するその対象として、あなたを造ったんじゃないんです。アダムも、我々も、です。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

それは、神様と私達が、『愛の関係に入るために』創造した。神様は、『われわれに似せて、われわれのかたちに人を造ろう』と言われたんですよ。それは、何のために？治めるためでしょ。そして、アダムが全てのものに名を付ける。それを見るために造ったわけよ。治めるため、名をつけるため、つまり、その名をつけるということは、その造られたものの性質をよく知って、治めるということ。

[神様が、われわれの神のかたちに似せて、・・・]という『われわれ』って、『共同体制の』言い方ですよね。父と子と御霊という『われわれ』の関係性に似せて、『人（単数のアダム）を造ろう』と言ったわけ。そして、『人を造ろう』と言って造ったその人を、『エゼル・ケネドー』、向き合う者の助け同士として、男と女を造ったんです。 32:19.69

『神は、ひとりの人、アダムを造って、男と女に造った。』・・・なんですか？この2段階の言い方。つまり、男も女も ひとりの人のように造っている。それが、神に似せた造られ方であって、その似せたものの中に、男も、女もいたということです。

[ふさわしい助け手] と、日本語で訳しているけれど、何のことか分かりづらいですよ。これは、向き合う者としての『助け手』という、向き合う者同士の関係性の中に、[われわれを造った]ということです。造って、この世の全ての存在、霊的な存在も含めて、神の代理者として、すべてを治め、育むという、そういう任命を与えたわけです。

神の『命の息』を与えられたのは、アダムだけでしょう。これは、神様にとって。もの凄く親しい、自分の脇に、腹の中に引き寄せた存在だということです。だから、主の僕とか、仕え人とか言われるけれど、人は、神様が創造する地球をともに創造していくパートナーです。絶対の信頼を置いて、神は命の息を分け与え、そこまでのです。 34:36.67

すでに言っていますように、創造の六日目の初めは、神が[造った]（バーラー）という動詞を使い、その後、創造の7日目の一番最後に言った言葉、それが、神様と人も主語として使える動詞、[らアソート]（造るために）、で終わっているんです。35:07.93

わかりますか？はじめ、神様は、神ひとりが使える言葉で[創造した]と言いながら、最後の最後、7日目の最後では、神も人も共に使える[造るために]という言葉で終わるんです。35:31.23

ですから、ここをしっかりと、受け止めましょう。神様と私達というのは、神様は頑として、義で正しいお方で、人間を治め支配し、間違ったことをする人間、背く人間に対して、厳しい目を向けておられる、そんなイメージが最初にあると、後の聖書が読み解けません。

神様は、ナタを振るって、鞭を構えて、「さあ、お前たち、正しく生きろよ。さあ、お前達、わたしが送ったキリストを信じているか？もし、ちょっとでも、心ふれたら、大変だぞー」と。・・・そうなんです。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

多くの人達は、神様と人間との関係性を、なんかそういうイメージを持っている。心の底でそう捉えているんです。それって、私たちが長い間、密かに思わせられたところで、それがあると、我々は、神の子として本当に解け放ちません。「聖霊を受けた」とか、何とか言っても、解き放ちません。根本的に、関係性の、神の国の『概念のズレがある』からです。 37:58.12

ちょっと話が変わるんですけど、この前、うちの息子と会話していて、こんな話が出たんです。・・・今も思い出しちゃうんですけどね、聞いたことありますか？世界で、この歴史上で一番、残酷な実験って、聞いたことある？誰かあるでしょう。この歴史上の実験。ちょっと科学的な発想が、そこに出てくるんですけど、その実験がなんと、あのルネッサンスの時代からの勃興に影響を与えているという。論文もあるぐらいで、それは、何かというと、中世のローマ皇帝の一人で、紀元 1200 年位の人だと言われているんだけど、もすごく頭のいい理性的な王だったらしいんですよ。フリードリヒ 2 世って言ったかな。でね、その人は、もう中世においてもピカイチの人で、あの十字軍のあの悪辣な、悲惨な十字軍をガラッと趣きを変えて、文化と経済の交流の基盤に変えていったという、有名、有能な人だったんです。で、その人は、言葉が巧みな人で、なんと 5 カ国語か 6 カ国語が話せて、アラビア語もできたので、その十字の遠征の時にアラビア語を使って、相手と交流して、単なる血生臭い十字軍じゃなくて、「それはもう改めよう」と言って、回復していったんです。40:32.09

そして、彼は言語が得意だったので、「人間の言語って、どうして覚えられるんだろうか？」「言葉って何？」「ラテン語を喋る人の子供は、どうして、いつの間にかラテン語を喋るようになるのか、どうしてギリシャ語を喋る人は、ギリシャを話せるようになったのか、どうして、アラビア語を喋る人は、アラビア語を喋るようになるんだろうか。」と、というような興味を持っていたそうです。

それだけじゃなくて、いっぱい、いろんな実験をしている人で、有名だったんです。その中で、最も悲惨な実験だと、後で、ものすごく批判された実験を平気でやれたというのも、その時代だったからかもしれませんね。それは、何かというと、「生まれたばかりの赤ちゃんを何人も集めてきて、この子供たちがどうやって言語を習得していくのか、というのを見てみたい」という実験で、しかもその時の条件が、「いいか、生まれてすぐの子に、誰もこの子たちを抱っこしてはならない」というもので、本当にえげつない実験なので、気を悪くしたらごめんなさい。でもね、言いたいことがあるので聞いてください。42:10.75

その子達には、ミルクを与えず、・・・というのは、飲み物は与えるんだけど、ミルクを母親が乳房を含ませて与えてはならないというもので、他の方法でしろと。その上、母親でない他人を使ったと言われているんです。そして、話しかけてはならない。微笑んでもならない。それで、食べ物を与え続けて、何の相手もしてはならないと。この後の記録によると、そういう子供達が 7 人だったという記録書と、いや数十人だったという記録書と色々あって、そこは定かでないんです。その王自身がびっちり記録を残してはいないんです。で、その結果。その何にも話しかけられず、スキンシップを何も受けることがなかった。いわゆる

5C1⑩キングダムセミナー20251018

排泄のおむつ替えのときも、何も語ってはならない。そう言う厳しい残酷な実験をしたら、なんとね、1年も経たないで、そのうちの何人かは死んでしまったと。で、その赤ちゃんたちは、何の言葉も覚えることがなかった。そして、うめき声を出していたけれど、とうとう泣くことさえもなくなってしまったと。そして、6歳を迎えるまでに、全員が死んでしまったんです。こういう実験、もう聞くのも嫌でしょ。でも、そういう実験をやって、それを見ていた家臣たちや、後の時代の僧侶たちが、「あの王は、こんなことをしたんだ」というのを書き残しているんです。44:40.59

つまり、「人が赤ん坊としてまれて、呼吸をして、食べ物もらっても、飲み物もらっても、人は育たないんだ」ということです。何が必要なのかというと、その人に、いや、その赤ちゃんに、顔を近くして、向き合って、微笑んで、声をかけて、スキンシップをすることだったんです。そうでないと、言葉も何も出なかったということが、その実験でわかったんです。

それで、人は、語りかけてこそ、また語りかけられてこそ、我々は応答するんだと、そういうことが、ありありとわかったということです。けれど、その結果が詳細にレポートとして残されていないのはなぜか。実験をするのは軽い気持ちだったんだろうけれども、あまりにもショッキングなことで、もう書くに書けなかったのではないとも言われているんです。だから、後の時代、実際にそれに携わらなかった人たちが書き残しているんです。46:10.13

今これを聞いている私達は成長して、生きていますよね。言葉も喋れる。それはなぜか？というと、そういうケアを生まれて、すぐから私たちは受けてきたからですね。絶対。受けてきたはずですね。・・・だけど、受けてきたと言っても、それは人によって、さまざまですね。みんな違うよね。46:52.96

生まれてすぐに、初めてのケアというものを受けて、育てられ、私たちは大きくなり、受け継いでいくのだという、そのような秩序、成り立ちを込めて、神が造ったんです。・・・だけど、聞いてください。神がアダムとエヴァを創った時は、赤ちゃんですか？違いますよね。もう成人した人間を、ちりから造って、命の息を鼻に入れたんですよね。アダムとエヴァという人を創造のとき、成人した人間を造るということ、それは、赤ちゃんから、神が人に本来なすべきことを、『われわれに似たもののように造った』いうことを、全部込めているわけです。そのように造られているわけです。48:14.08

神の国は、神の命は、『相互的な関係性』なんです。相互的な関係性の中に、アダムはしっかり造られて、そして、男と女に分けられた。分けられて、それでよしよしなんです。

ですが、・・・ここに、霊的なシビアな現実が待っていた。そこに、造られた生き物の中で最も狡猾なものがいた。その狡猾なものは、やってきて、彼らに語りかけた。[「神は本当に言われたのか？これら全部を食べてはならないと言ったのか？」]と。(創世記3章1節)

・・・この時に、蛇が強調して言っているのは、[神は、] 言ったのか？ということ。それまで2章で言われた、[主なる神は(アドナイ エロヒム)]の[主なる(アドナイ)]という言葉、原文では蛇は、

5C1⑩キングダムセミナー20251018

削除しています。つまり、そこに含まれているのは、私の『主なる神』という向き合いの神ではなくて、
【神（エロヒム）】という言葉で、蛇は単なる 三人称の『あの人は』という言い方で言いました。

そして、女は蛇に「食べて良いのです。全部食べて良いいんだけど、『その真ん中の木の実だけは取って食べるな』と言われました。『死んだらいけないからだ』と言われた」と言った。けれど、蛇は女に「いいえ、死にません。神は知っているんですよ」という、また、神を「あの人」呼ばわりで。そうやって蛇は、女に近づきました。 50:51.34

みなさん、この言い方、なんですか？『私とあなた』という『向き合いの関係性の神』、『命の向き合いの関係性の神』、『命の応答性』のある 関係性の二人の中に、蛇は入ってきて、『私とそれ』、『あなたとそれ』なんだよ』と言う。命の向き合いじゃなくて、そこに隙間を持って『命の向き合いじゃあないもの』をもたらしてきました。 51:47.48

蛇のその語りかけによって、人間の側では、『私とあなた』の神との関係が乗っ取られ、初めの神との関係性を遠ざけてしまった。そして、蛇が勧めた通り、その木の実を見ると、「とても好ましく美味しそうで、賢くするにはさわしいものだ」と思えた。だから、【欲望が燃えて、それを取って食べた】と書いてある。 52:49.25

アダムは、初めから神と向き合う関係として造られたけど、・・・赤ちゃんに向き合って声をかけて、一体のものとしてケアをしていくという、・・・その関係を失っていく。そして、そのアダムとエヴァの関係性はどうなんですか？お互いに、「あの人がくれたからです」という関係性になり、そのアダムとエヴァから生まれたカイン、アベルの中には、アダムとエヴァにあった関係性の絶妙なトゲ？が着実に受け継がれていくんです。それで、カインの子孫が生まれるわけでしょ。その根柢は、関係性の問題なんです。 54:07.36

神に与えられた『王権の関係性』を『神の国』というんです。そしたら後ほど、エヴァがまたセツという子を産んだ。エヴァはやり直しを、かけたんです。【神様は、別の種を私達に与えてくれた】と。そして、そのセツの子孫の中に 【人々は主なる神の名を呼ぶとことを始めた】（創世記4:26）と、書いてある。神様は、セツの子孫の中で、そういうアダムの子孫だったけれど神ともう 一度、心を決して向き直す人たちを待っておられるんです。

【そのセツの子孫の中に、エノクという人がいた。神と共に歩んだ。エノクも神と共に歩んだ】と書いてある。神は、エノクを喜び、エノクを取ったから、いなくなったと、言われている。そのエノクの子供の子供、その子供である 【ノアも、神と共に歩んだ】と書いてある。・・・その創世記の6章をちょっとみて下さい。6章7節からちょっと、読んでみましょうか。 58:13.54

5C1⑩キングダムセミナー20251018

創世記 6:7[そして、主は仰せられた。「わたしが、創造した人を地の表から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これを造ったことを残念に思うからだ。」]

・・・神様が、大々的な期待をかけて、共に全地を創造しよう。築き上げようという、その気持ちに根っこから答えられないようになった。これは、その前にちょっと戻って下さい。

5 節[主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。]・・・ここの中の、[心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾く]という、この言い方は、要するに、原文では、もっと単純に書いてあるんですが、・・・要するに『人が心に思い計るその根底が、もう悪だった』と、言っているんですよ。我々の魂で思い計る、我々の頭で考えること、思うこと、そのことを我々の頭の中で、作りだしているわけでしょ。思いついているわけでしょ。その思いついている悪、考えを、『創り出すものが、悪かった』と言っているんですよ。どういうことですか？・・・ということは、その根底が悪かったら、何を考えても全部悪いと。何考えても無理。ということでしょ。どうあがいても、神に向き直るということは、もう無理。というところまできていると。それを言ってるわけよ。 1:01:10.08

だから、単に神様が怒って、ああもうこいつらだめだ。滅ぼそうという、そういう判断ではないんですよ。それで、これを造ったことを残念に思う。神様がどんなに残念だったか、ということです。そして、8 節ですよ。

6 章 8 節[しかし、ノアは主の心になっていた]と書いてあります。9 節[これは、ノアの歴史である。ノアは正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは、神と共に歩んだ。]・・・で、ここでさらっと、8 節の初めに、[ノアは、主の心になっていた]と書いてあるけど、これには原文のヘブライ語の慣用句がありまして、これは「神様の恵みをノアは頂いていた」という意味だよというふうに、伝統的にとられるんだけど、その言葉を皆さん、聞いたことがある人がいると思いますが、直訳してみると、『ノアは、神の目の中に恵を見つけた』と、書いてあるんです。 1:02:41.59

[その時代にあって、ノアは、神の目の中に恵みを発見した。] って、その言い方がなんのこっちゃって、わからないから、とくに日本語は、慣用句として『主の心になっていた。』というふうになっちゃってる。英語の聖書では、その通り、主の目の中に発見した]と訳してるのが多いんです。 1:03:24.32

この直訳の意味するところは、ノアは、この時代の中にあっても、心ひそかに、神様に、『自分から応答の目を向けている』わけ。神様に言われるばかりじゃない。ノアは、神様にほとんど応答していませんよね。アブラハムのように。ノアは黙って、言われるままに箱船を造っていきます。そんなノアは、主に向き合って、主の中に恵みを見つけたんです。全くこの厳しい裁きの神のような情景の中であってもです。

元々、神様は、人間を支配し、裁きの対象として造ったわけではありません。共に王権を使い合って、共に高め合って、共に治め、育む関係だったんです。でしょ。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

『人と神との初めのアダムの関係』というのを、皆さん、このキングダムセミナーで、何回も言っています。自分はもう、墮落した子供だ。自分はもう、神様を彼と呼び、向き合って来なかった。最近、向き合うことを覚えたけど、やっぱり私は根底は墮落した子だから、うっかりしたら裁かれるかもしれない。うっかりしたら落ちるかもしれない。そればかり**びくびくして、生きる方を選びますか？**

思い切って、神様の初めの構えの通り「主よ。今私は、あなたの女の末のイエス様を通して、私は回復しました。私は、元の使命の中に、今大胆に悠々と生きていきます。」と言って、神に目を向けて、神の目の中に、『初めのアダム』を見つめる『神の目の恵み』を見つけるべき時なんです。1:06:36.29

創世記の1章の6日間、そして2章の初めの3節までの7日間を通して、神様は、『天地の創造、すなわち神の国の創造はまだ終わっていません。』と言っているんです。

何故、それが分かりますか？ 7日目の一番最後の言葉、・・・『造る為に』ですよ。神と人がこれから造る為に、『6日間、7日間で、これらのことをしましたよ』というメッセージがある。

だから、人はもう一度、イエス・キリストを通して、御国の創造のパートナーにならないといけない。この『創造の始め』を、どう受け止めているかということ、これをじっくりと内側に消化したいものです。1:08:13.12

はい、では、本に戻りますよ。53ページの中程の段落。

I コリント 15:22 のところを読みましょう。

[アダムにあって、(アダムの中で)すべての人が死んでいるように、

・・・ここで、"死ぬ"ということは、何を指していますか？この御国の"関係性の死"です。「あ、それって霊の死ではないんですか？」と良く言われます。いいですよ。“霊の死”だと思っても、でも、私は“霊の死”というものを肯定しながら、それをもう1枚はがして、奥を言っているんです。“霊の死”と言われたって、自分に何の自覚もないじゃないですか。

でも、はっきり私たちの任務、責任を、そこに思い起こしながら見つめると、神の国の『王権』を使って、互いに祝福し、立て上げながらいく関係性の死です。ところが、それが神の約束のひとり子、キリストによって、始めのアダムが失敗した関係性を、十字架と復活によって回復させたので、私達が『キリストにつくものとして』自分を決心すれば、このキリストの中ですべてが生かされるからです。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

次の段落を読みます。

神の観点によれば、神とアダムは、一つとされていました。アダムの中に命の息(霊)を入れて、ご自身のイメージと同じに造られたからです。この点で伝統的な教えから受ける印象が、私たちを解き放とうとしません。被造物としてのアダムは、「創造主なる神への服従を捨てたがために、罪の報いを受ける者となった」ということは、正しいことなんです。しかし、創造主と被造物という断絶が強調され過ぎたために、大切な真理の部分が押しつぶされてきました。・・・言ってること、わかりますか？次いくよ。・・・1:11:36.51

大切な心理とは、神とアダムの『連続性』です。つまり、創造の時から始まっていた神とアダムの相互内在の関係が、ほとんど無視され続けていたということです。アダムに任せられた全地に、対する支配権、代理権は、単に人間に課せられた仕事として受け止められ、アダムの中にある命の息は、生物の呼吸に過ぎないものとして考えてしまいました。また、「血はいのちだ」と言われた『血』という語が含まれる「アダム」という語を、地のちりで造られたからと、「土」という意味の「アダマー」から来ていると断定してきました。なぜこれほどまでに、神と人間の断絶を強調し、栄光ある私たちの被造物意識を、卑屈で惨めな非造物意識にしなければいけなかったのでしょうか。人間理性の高ぶった時代を、通り過ぎて来たからでしょうか。でも、聖霊の注ぎが濃厚な回復の時代には、もうこの革袋は避けてしまうでしょう。私たちがもう一度、虚心坦懐に、創造の啓示を黙想したいものです。

そして、先ほどの実験から言えることは、私達は、赤ちゃんとして生まれました。そして、謙遜して、「そこそこ」、「それなりの」と言っておきましょうか・・・それなりの母親、父親の下でケアされて、今まで生きてきました。でも、それは、人それぞれ、いろんな親がおったわけです。我々のケアのされ方が違うでしょう。それなりに。乏しいケアしかなかった自分があったかもしれない。でも、仮にそうであっても、我々は物心ついて、しっかり意識して、生きて行く中で、自分自身を立て直して、自分自身を向け直させて、しっかり人生を歩み始めて、今まで生きて来ているはずです。

さっきの実験の話を聞いて、ああ、私の親はいなかったとか。私の親は、こうだったと思った方もいるかもしれませんが、でもはっきり言えるのは、もう私たちは親にケアしてやり直してもらうことができません。どんな親であり、幼少期であったとしてもです。もう無理です。それは不可能です。だから、我々が生きた一人ひとりの魂を持った人間として、自分を築き上げてきたわけでしょう。でも、今、創世紀のこのアダムを読んだ我々は、聖書の御言葉とメッセージに接する我々は、今、主と向き合って、それを取り戻すことができるわけです。過去がどんなであったにせよ、私たちは、主と向き合って、その過去の分も取り戻して、これから先、もっと自分を輝かせていける、満たらせてゆける、自分にできるわけです。我々は、今キリストに向き合っている。キリストの中にある。互いに存在しているからですね。1:16:23.32

5C1⑩キングダムセミナー20251018

では、その次のところを読みますよ。【この関係は、創造の時から霊の世界の根源的事実なのです】というところです。54 ページ

神と一つとされたアダムは、サタンを受け入れ、神との関係を自ら立ち切る道を選びました。彼は、サタンを治めるより、サタンに治められることを選びました。したがって、その時アダムの家族も子孫も、アダムと同じ道に入ったのです。アダムと彼らとの相互内在の関係のゆえにです。

・・・フリードリヒ 2 世の実験と同じですよ。その後、誰が生まれても、誰を育てても、もうそれが永遠と続く世界の中に入ったんです。・・・

アダムがサタンの支配に入ったなら、全ての子孫人類がサタンの支配の関係性に入りました。このように、夫婦・親子・民族・国家・人類の存在の根源には、神の創造された時から、(いい意味でも、悪い意味でも)『相互内在の原理』が生きているのです。

・・・これを現代心理学で有名なカール・ユングは『集団的な無意識』という表現で言いました。民族的集団の無意識がそこにある。それとか、ユダヤ人の心理学者アドラーもそうです。人類には、共同体意識が、いい意味でそれが繋がっていく。共同体無意識、共同体的な意識に完成させられていくんだと言っています。聖書的に言えば、神の国意識、キリストの体意識。それに共通していく言い方です。1:19:51.60

だから、聖書の根源を尋ねているユダヤの心理学者たちというのは、やっぱりそういう発想を持つわけ。はい、その次の段落を読みます。・・・

このように今まで、『イエスとの相互内在』として話してきましたが、この関係は、創造の時から、霊の世界の根源的事実なのです。ですから、アダムに起こったことは全人類に起こりました。アダムが経験したことは、全人類が経験したのです。それだから、神は人類と初めの関係に戻ろうと思えば、アダムとの相互内在の関係には、無い人を遣わすしかなかったんです。神ご自身との相互内在を持ちつつ、アダムとは相互内在にない人、すなわち、人となったキリスト・イエスです。

サタンの支配の中に陥ったとしても、アダムの中には、神ご自身の命が残されているからです。人がキリスト・イエスの中に入るなら、初めの関係に戻ることができるのです。1:21:12.71

現代は、個人主義の時代だと言われてきました。「たとえ隣人に何が起ころうとも、私は私だ。」「根本的に、他の人とは関係ない。」夫婦も、親子も、民族も、国家も、一人の個人が集まってできているから、原型はバラバラな個人という単位なのだ」と考えています。個人個人が先に存在していて、個人同士が集まって、全体を形成するというのです。確かに悪しき全体主義の時代には、個の強調が必要でした。個人の尊厳は犯すべきではありません。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

しかし、私たちは全体主義の呪いを払いのけながら、霊の世界の不動の現実、心を止めることを、ともに捨ててしまったようです。教会がキリストの体というとき、バラバラな個人の集合体という意味以上に、キリストの体を捉えることができなくなりました。そして、今回、主と一つとされていると知っても、何かもう一つ深くなることなく、黙想が途切れてしまうのは、この個人と集団の聖書的原理を受け入れられないことと、自分の身近な人々の間での応答がないことに起因しているようです。

初めのアダムと一つとされているということ、完全に相互に内在しているということ、私たちはしっかり黙想する時が来ているということです。

ここは、深く、微妙なところです。「完全に OK で、その通りだ」と、あなたが思えなくても、解かれ方を、ちょっと心に漬物にしといてください。そしたら発酵して美味しくなりますよ。
はい、さらに続けたいところなのですが、休憩しましょう。3時5分から始めます。

後半

はい、それでは後半を始めます。よろしいでしょうか？ 55 ページの中程のところを見ていきます。

00:50.00

【私達人間同士も霊で一つとされているのが創造の原型】

個々の人が、単位だということは、紛れもない現実です。でも、個人が霊の次元で、神と一つとされているように、私たち人間同士も、それと、同じ次元で一つとされているのが、創造の原型であったとしたら、あなたは驚くでしょうか。知性では驚きでしょうが、霊では懐かしく捉えられるでしょう。特に夫婦・家族・民族といった集団においては、これが顕著です。

ですから、この原理がわからなければ、個人主義に走るか全体主義に行くかのどちらかになるでしょう。真理は、この両方の現れをもっているからです。歴史の振り子は、この両極の間を揺れて来ましたが、御国の啓示の到来は、振り子を正しい位置に戻すことでしょう。神はご自分を偽ることのできないお方ですから、常にこの原理で、人類を見てこられました。

・・・その下の、箇条書きのところも読んでいきます。・・・2:30.05

(1)まず、神は当然のように、アダムの中に全人類を見てきました。(創世 1:28)

(2)ついで、神は、アブラムの中に全人類を見てきました。(創世記 12:1-3)

(3)そして、神はついにキリスト・イエスの中に、全人類を見ているのです。(エペソ 1:4)

・・・これ (1)(2)(3)の3つだけですけど、細かく言えば、無数にもっとあります。次、56 ページ。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

またしても言いますが、これは、文学的表現ではありません。それだから、次のように言うことができます。「アブラハムに起こったことは、私にも起こったのだ。キリストの人生に起こったことは、私にも起こったのだ。」ということ。これこそが、ヘブライ的感覚が公言して、はばからないことです。

「アブラハムの契約は、我々の契約だ。」

「ヨシュアの勝利は、我々の勝利だ。」

「ダビデの栄光とソロモンの栄華は、我々の栄光と栄華だ。」

アブラハム、モーセやヨシュア、ダビデやソロモンなどの人物に、イスラエルは集約されているのです。「個人は集団を表し、集団は個人に表される。」この思惟は、ヘブル人に特有だというのではなく、全人類の根底に横たわっている、『霊的原理』なのです。だから、神の言葉は、全世界に向けて、宣言されているのです。もう一度、先ほどの御言葉を読みます。

「アダムにあって(アダムの中で)、すべての人が死んでいるように、キリストによって(キリストの中で)、すべての人が生かされるからです。」

・・・神は、この言葉を解き放って、人類に聞いているわけです。尋ねているわけです。

「あなたは、どこにいるのか？」と。

「さあ、あなたは今、どこにいるんだ。」と、そう聞かれているんですよ。・・・5:01.48

また、聖霊は、次のような表現もよく使います。

I コリント 7:22

「奴隷も、主にあって(主の中に)、召された者は、主に属する自由人であり、同じように、自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです。」

・・・はい、これが、クリスチャンの自由と言われるところです。・・・

その次、II コリント 10 章 7 節も読んでみます。

「あなたがたは、うわべのことだけを見えています。もし、自分はキリストに属するものと確信している人がいるなら、その人は自分がキリストに属しているように、私達もまた、キリストに属しているということをも、もう一度、自分でよく考えなさい」05:58.61

・・・これは、なんのことかという、パウロが、コリントの教会の人たちに、アドバイスを送っているわけです。「あなたがたは、こうこう、こうだと思いなさい」と言っているコリントの人たちは、「私たちはキリストに属するものだ」ということで、満全と喜んできていた。けれど、パウロの言うことに対して、聞かないところがあったんです。6:35.46

そこで、パウロがこういう言い方をしている。「あなたがたが、キリストに属していると、確信しているなら、このパウロ、ここにいる私達も、またあなたがたに忠告をしている私達も、またキリストに同じく属し

5C1⑩キングダムセミナー20251018

ている者だということを考えなさいよ」と、言っているんです。07:07.27

・・・面白いね。キリストに属する者だからといって、みんな魂のレベルで同じ考え方をするとは限らない。意見が違う。対立したからと言って、「あ、アイツらは、キリストに属していない」と言っただけなのではないと、言っているんです。7:38.68

それは、キリストに属するという、霊において、一つとされているからです。『一つ御霊を持っている』ということにおいて、一つだという土台の上で、我々が向き合って語り合いなさい。腹から相談し合いなさい。忠告し合いなさい。アドバイスし合いなさい。ということです。言いたいけど、遠慮して、これ言えない』なんていうのは、ほんとに魂的な問題です。

そして、ここに『属する』と、訳されている言葉が、Iコリントの1章12節でも使われています。
[あなたがたは、めいめいに、「私はパウロにつく(属する)」、「私はアポロにつく(属する)」「いやいや、私はケパベトロにつく(属する)ぞ。』という、その中の一人が、「いやいや、俺はキリストにつく(属する)ぞ」と言っているということです。]

・・・面白いね。ここに、パウロ派、アポロ派、ケパ派にするとしたら、俺たちこそキリスト派にする、という人がいるという。パウロは、皮肉って言うてるようですが、ここにはもっと深い意味があるんです。9:21.91

あなたがたは、銘々、パウロにアポロにケパと言っている。やっぱり、人間はみんな固有の魂的な考えを持って、それぞれの気持ちや考えがあるから、「ああ、私、パウロがいいな」と言うのと「いやいや、パウロってね、ちょっと暗くてね。私は、元気のいいアポロがいいや。アポロの説教を聞くとスカッとするもん。」
「私はやっぱり、ケパだな。ケパは、人情の人だよ。」と、勝手にそういうことで、みんな自分の気持ちや感性や魂に合う人を選ぶんです。全く魂的な人間なんです。それを霊的人間とは言わない。魂の好みなんです。それを「なくす」というのは、無理だけど、当然この中で、みなある程度、それは、やってきている。

とすると、この中で一番いいのは誰？「私はキリストに属する」？ パウロが言いたいのは、これだなと思うじゃない。ところが、このキリスト派っていうのは、「私は直接キリストに結びついてるから、パウロ？アポロ？ケパ？そんな人、いない。直接、キリストから来るから」と言って、神の民の不十分ながら、魂的なものが混在しているけど、そのことの中で覆われて、真理にもまれながら、真理に気づいていこう、成長していこうという、神のキリストの共同体の在り方を頭から否定して、「俺はキリストにつくんだ。」「俺はキリストに近いんだ」と言っている人達がいる、この“キリスト派”っていうのが、はたまたまた問題なんです。11:52.94

だけど、根底に我々が持っているのは、『何々に属する、何々と一つとして結び付けられている』ということに謙虚にならなければいけません。12:14.80

5C1⑩キングダムセミナー20251018

だから、その人の魂の癒し、必要性のゆえに、ある時は、優しいケパがいいかもしれない。そのケパによって、真理に至るんだ。ところが、ある程度、それができてきたら、いやそこはもっと強力な、強烈な、力強いアポロがいいなって。・・・その中で、自分は育つべき時がある。そうすると、次は、「いや、ギリシャ人もヘブライ人も何もないんだよ」という普遍的な深い人類の同一性に目覚める。「パウロが、私は今必要になっているんだ」と言っている。それぞれなんです。その時に応じて。13:24.53

そこで、「あなたは今、誰と向き合い、どういう人達と、親しくなって、交わって、耳を傾け、心を注ぎ出していますか？」これが、とっても大事なところですよ。アーメン！13:55.57

この面で、私の真似をする必要はないですよ。もう、十代の頃から二十歳前後の頃迄、わたし、教会を3つ、4つ、教会を掛け持ちしていましたから。そして、この事については、こっちの集會に、このことについては、こっちの集會にと言っ、もう土曜日、日曜日、自転車であっちこっち、かけ回っていたことがありました。14:39.73

さあ、そこで、また聖書の言葉を何ヶ所か開いてみますよ。ヨハネによる福音書を見て下さい。イエス様が、今日話している真理について、ご自分で告白し、または、父なる神に語り、弟子たちに語っているという濃厚なところがあります。お分かり ですね。ヨハネによる福音書の10章以下です。10、11、12、13.14、15、16、17章、この辺は、じっくり、読むべきところです。

『相互内在』ということ、このセミナーでは、何度も言ってきましたけれど、それを一番初めに言ったのは、勿論、イエス様です。・・・ちょっと、順番に開いて見ていきますよ。まず、ここは、直接、『相互内在』のことではないけれど・・・10章の14 15 節 16 節のところを通して見ていきましょう。

ヨハネ 10:14 [私は良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものはわたしを知っています。]15 節[それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊の為に、わたしのいのちを捨てます。]16 節 [わたしはまた、それを導かなくてはなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。]
・・・わたしは羊のために、『わたしのいのちを捨てる』という、イエス様の言っていることは、創世記の初めと、ダブって聞こえるんですよ。[神のいのちの息を、(鼻から吹き込んで)・・・命を与えた。]

17 節 [わたしが自分のいのちを再び得るために自分の命を捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。]・・・この御子イエスの気持ち、この決心は、父の決心であるということです。この流れで、

5C1⑩キングダムセミナー20251018

10章の30節になんといっているか、読んでみましょう。18:46.91

ヨハネ 10章 30節[わたしと父とは、一つです。]

・・・凄い、宣言なんです。この宣言のゆえに、「自分を神と同一とするのか」と言って、イエス様は、命を狙われたんです。

はい、そして、本当は、ざーっと読みたいんですけど、どうぞ後でひとりっきりになって、ゆっくり読み通して下さい。19:29.58

10章 38節、

[しかし、もし行っているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知(り続け)るためです。]・・・ずっとこれから、父とイエスとの相互内在を、イエス様は、宣言している。しつこいほど、イエス様は、これを言われるんですよ。・・・

そして、そのあと 11章 25節、[わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。]26節 [また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このこと信じますか。]

次は、もうちょっと先に飛んでいきますよ。14章 2節を読みます。

2節[わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのところに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。22:16.04

・・・この「住まい」とか、「父の家がある」「備えに行く」「また帰ってくる」と、いうところを、いわゆるイエス様の再臨時の「行ったり来たり」のことだと、すぐに、そこにひっつけて考える考え方がありませんけれど、そこに引っ付けて考える考え方もありますけれど、・・・そう考えるのも自由ですけれど、聖書が言っている、父の家の住まいに住むということのレベル、霊の位置というもの、そういう深みを捉え忘れたらいけません。単に自分の体、肉体があっちに行ったり来たりということを、それだけを想定するのは、ちょっともったいないことです。いいですか？この辺については、また話す時があると思います。23:29.86

それから、ピリポの質問があるんですけど、

ヨハネ 14章 8節[ピリポは、イエスに言った。「主よ、私達に父を見せてください。そうすれば満足します。」]ところが、イエス様は、9節[イエスは彼に言われた。「こんなに長い間あなたがたと一緒にいるの

5C1⑩キングダムセミナー20251018

に、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、「私達に父を見せてください」と言うのですか。]

・・・父と相互内在であることを言っている・・・。

10 節 [わたしが父におり、父がわたしにおることを、信じないのですか。(それに目が開かれないのか) わたしがあなたがたに言う言葉は、わたしが自分か話しているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。] 11 節[わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。]・・・私と伴う生活の中で信じなさいということですね。24:57.26

・・・そして、だんだんとクライマックスになっていくんですよ。

16 節[わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもう ひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためです。] 17 節[その方は、真理の御霊です。世は、その方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方は、あなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。] 18 節[わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしはあなたがたのところに戻って来るのです。] 19 節[いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるので、あなたがたも生きるからです。]

・・・ここ、もの凄い含みがありますよ。・・・

20 節[その日には、わたしが父におり、あなたがたが私におり、わたしが、あなたがたにおることが、あなたがたにわかります。]

・・・はい、ここはハッキリ、『相互内在』のことを言っています。何によって、わかると言っているんですか？『聖霊が、来るからです。聖霊があなたがたに住むからです。』と言っているんです。26:41.53

・・・[わたし、イエスをもうあなたがたは、見なくなります]と言っている。見なくなるのに、どうして捨てて孤児とはせず、あなたがたのところに戻ってくると言えるんですか？

それは、「聖霊が、あなたがたに住むからです」と言っているんです。分かりますか？聖霊内住が、いかに大きなことであることが。聖霊の内住が、神の国に関わっている。私達が初めのアダムの状態にかえることにかかっているんです。・・・27:25.23

21 節[私の戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛する・・・]と言っている。

・・・この愛というのは、どんな愛？ 人には難しいよね。ちょっとした「イエス様好き」という『好き』もあるし、「イエス様、あなたのために生きたい。あなたと共に生きたい。」「もうイエス様の足にすがり

5C1⑩キングダムセミナー20251018

つきたい。」そういう愛もある。でも、どんな愛にせよ、イエス様は受け入れてくれます。そして、その応答を私達にくれるんです。それを聖霊によって確認できるんです。

そしたら今度ね、質問者ユダが、時にかなって質問しているのが、これがまた見逃せない。

22 節[イスカリオテでないもう一人のユダが、イエスに言った。「主よ。あなたにはご自身を表そうとしながら。どうして、世に現そうとしながら、世には現そうとなさらないのは、どういうわけですか?」と、言っているんです。

・・・もうこれだけ、人に知れたし、そろそろ、イエス様、この世界一体を巻き込む大変革制度を行ったらいかがですか? リバイバルが来ますよという感じかもしれない。・・・ところがイエス様は、23 節に答えられた。29:29.44

23 節[イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしの言葉を守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

・・・さっきとことを言っているようだけど、じっと見てください。よく聞きましょう。[わたしを愛するものは、わたしの心、言葉を守る。]つまり、わたしの言っていることを心に思い巡らし、その深みを探てくれます」と言ってる。そうすれば、わたしの父はその人を愛する。その人に、わたしの父は、心を現し、次です。

・・・[わたしたち]というのは、だれですか? イエス様と父でしょ。父はイエス様の中にいたんでしょ。このイエス様と父のお二人はどう言っているの? [その人のところに来て、その人と共に住む]と言っている。30:52.11

・・・これが、「ユダが質問した答え」だったというところに、イエス様の思いがある。単にイエス・キリストというナザレから出たお一人の有名人が、スーパーマンが、現れて、大きなことをやって、人を集めて、「大リバイバルが起こったぞ。」と、そういうことをイエス様が目指しているのでは、なかったということ。イエス様が目指したいのは、――『世に現れる』というものはどういうものなのか? それは、父と御子がともに住むレベル。そこにすでに聖霊が住んでいる、父と子と聖霊が、あなたという一人の中に『住む』そういう『現れ』方。出来方。そういう『御国の関係性が現れたその人の中にあって』、そのひとによって、この世に現れるんだという、これがユダの質問に対する答えです。32:58.40

24 節[わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。]

・・・イエス様がなんで、父、父って言わなければならないかというと、イエス様は創造の初めからの間で、神を父と呼んで、その関係性を現してきた。創造の始めから、向かい合って、私たちに人に語りかけ、霊を与え、命を与え、スキンシップして育てて、関わってくださった、その父を、意識して、その父とイエ

5C1⑩キングダムセミナー20251018

スゴ自身との『関係性』を表現してるんですよ。34:05.64

26 節、[しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。]

・・・聖霊に期待しましょう。聖霊を認めましょう。我々の内に静かに、しっかり内在しておられる聖霊を確認し、自分で、認めることです。35:03.59

次、15 章。ここで、キーワードである『わたしに留まる』という言葉が多くかぶさって出てきます。

15 章 4 節[わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。・・・同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことができません。]

・・・『相互内在』を確認しなさいと言っています。みんな、とんでもなく困難なことではないんです。私たちの内に御霊がいることを認め、確認することです。36:09.09

5 節に[・・・人がわたしにとどまり、私もその人の中にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。・・・]6 節[だれでも、わたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて・・・しまいます。] 7 節[あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのために、それがかなえられます。]

・・・この後、あなたがとどまり、とどまっている同士のあなたがたが、互いに向き合って、愛し合うということを強調されてきます。37:38.82

15:12 節[・・・あなたがたも互いに愛し合うこと、・・・]13 節[人が、その友のために、いのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。]

・・・こういうところを読んでいると、以前、皆さんに私が紹介しました、エーリッヒ・フロンの『愛すること』という本に書かれていることが、よくわかります。『相互内在』にない人間は、人に好かれ、人に愛されることばかりを気にして、求めて走り回る。みんな、そういうところがあります。けど、その本には、むしろ愛されるよりも、あなたがたは『愛する人になるのだ』ということが強調されています。

38:52.18

それから、この 17 章に至って、ピークに達するというか、このイエス様の黙想と、心からの我々への語りかけが続きます。

17 章の 21 節 [それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです]

5C1⑩キングダムセミナー20251018

・・・どうということ？ 父よ、あなたがわたし(イエス)の中におられ、わたしがあなたの中にいるのと同じように、(弟子達・クリスチャン達が)みな一つとなるためにです。父とイエスが一つとなっているように、それと同じように、彼らがみな一つとなるように、つまり、なるためだと言っているんです。ウォー！

40:10.24

我々が主に造られて、どんなに凄い存在として置かれているか、そのお方がおられて、また、私達(クリスチャンの共同体)が、父とイエスの中におるようになるためです。

21 節後半

[そしたらば、あなたがわたしを遣わされたということを、この世が信じる、信じるためなのです。]と言っているのです。アーメン 40:55.06

・・・私達が、互いにどんなキリストの体にされてゆくかということまで、召されている。凄い光栄なことです。そして、この世に神の国の突破口をもたすために、私たちが御国を創造する為に置かれているということなんです。ただ、「はい、みなイエス様を信じてます。アーメン！ハレルヤ！」というその言葉だけで、現せるんですけど、それを、もっともっと、めくって、めくって、めくって、深く言ったら、ここになります。41:48.09

22 節[またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが 1 つであるように、彼らも 1 つであるためです。]

・・・わたしと父と が一つであるのと同じように、彼らも 一つとなるんだよと。私達は、どこまで行くんでしょうかね。もっともっと、我々は変えられていくんですよ。アーメン。42:33.75

23 節[わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたが私を遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように、彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。]

・・・一致の中に完成させられるためですということです。43:12.02

24 節[父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。]

・・・天地を造られる前から、これに耳を傾けている我々一人ひとりも覚えられていたんですよ。

25 節、[正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。またこの

5C1⑩キングダムセミナー20251018

人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。]26節[そして、わたしは、彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。]

・・・どうですかイエス様の心からの告白、父への祈り、語りかけ、我々に対する語りかけの中に、相互内在の真理が、どんなにあるか。それは、世の始めから、創造の始めからそうなんです。44:57.17

だからね、私は、この世にある偶像の神といたら、いっぱいあるじゃないですか。あの神この神、ばんばんと拝み倒してお札を納めてという、そんなレベルの信じるじゃないんです。我々の『信じる』というのは、心のどこかの向きで思い出した時に、プッと見て、バンバンと拝む。「ああ、それでご利益がありますように。家内安全、商売繁盛ですね」というだけのそんなレベルの信じるでもない。我々は、霊のレベルで初めから、父に撫でられ、食物をもらい、抱きしめられ、語りかけられ、向き合っているのです。46:26.72

だから、我々はみんな、『相互内在』を持った者同士で、『私とそれ』ではないんです。『私とあなた』という霊の次元の深い御国を現す、代表する出会いなんです。我々が会えるあなた、『私とあなた』が出会った時、私の中にいる聖霊とあなたの中にいる聖霊、そして互いの中にいる主も、そこにいて出会っているわけです。

ですから、深い霊の自分の思いを主との関係性の中の思いを、大切にして二人が出会って語り合う時、その相手の中に、あなたという人だけじゃなくて、あなたという人の中に永遠の存在であるあなたが現れ、永遠のあなたと会えるんです。私達は互いにですよ。48:09.57

ところが、人間の心というのは、生まれて育てられ、ものすごく魂的です。それしかない。聖霊の新たな思いというものを、なかなか自分の思いに馴染ませて思うことができない。それは、人さまがまでも、我々が内なる御霊と交わり、御霊と感じ取って、自分が黙想していく。それが主との交わりです。

一緒に集まって礼拝している時だけが交わりでも、なんでもないんです。一人で我々が静かに主と交わる時に、我々は自分自身の内にある御霊と交わっていると、（御霊が、いちいちなんかパツパ、ぱつぱとしゃべってくれるんですかって、いうとそうじゃないですよ。あなたの心にあたかも自分一人が黙想し、思いをつのらせて、考えているかのように思うけれど、）あなたの願いや思いや希望や心の中に、聖霊が同じ思いを駆け立ててくれるんです。聖霊の思いは、御言葉の思い、あなたの心に御言葉が、湧き上がってきます。

そういう思いを持って歌ってごらんください。異言を語ってごらんください。溢れてくるんですよ。異言も、霊の歌も。だから、私達と、主との交わりのレベルを、セミナーのこの部分ですけれど、レベルアップして、開いて、いこうじゃないですか。そしたら、もっと受け取れるんです。そしたらもっと、開かれていく。そうか、このことか、それか、というふうに、言えるようになってくる。

だったら、クリスチャン同士、御霊を持つもの同士、いつも話し合って、語り合ってと思うかもしれないけど、そんないつも、「なあなあ、ねえねえ」で、べったり、愛着のあるようなものと想像する必要がない

5C1⑩キングダムセミナー20251018

ですよ。私もそうですが、本当に、月に 1 回とか半年に 1 回とか、何年に 1 回としか話さない。このレベルの兄弟姉妹達を持っています。ほんとに日頃は、もう知らん顔して、何の連絡もありません。けど、1 年に何回か話す時、まるで、もう昨日まで、今日まで一緒に暮らしていたかのような霊的な親密さがあり、深さがある。深いです。非常に、クールな関係です。でも、非常に深いのです。それって、冷たいんじゃないありませんかと、思います？もっと毎日出会って、毎週出会って、わきつつき合って、交わりしましょうよ」
と言って、・・・それが出来ればいいけれど、そうじゃないんです。これは、冷たい関係じゃないんですよ。涼しい関係なのです。涼しく深い。ものすごく、暖かさが込み上げてくる。それは、我々が、一人ひとりが、この神の御国の関係性のレベルに、主との関係性のレベルに踏み込んでいけば、です。そのように我々は変わってくるんです。53:07.99

はい、この御国の、神の国の関係性のこのレベルを私達は、握ります。何か今日話したことで、今回の話の中で、言いたいことがありますか？大丈夫でしょうか？

パート 1 を心得た上で、とっても大事な所です。どうぞ、個人的に LINE で繋いで、質問を下さい。あるいは、交わりをしたいと思います。一つ、信仰の告白の歌を歌って、今日はこれで終わりにしたいと思います。

5C1⑩キングダムセミナー20251018

賛美

祈り 58:22.75

主よ、あなたは生きておられ、あなたは今もここにおられ、私たちとともにいます。主よ、あなたを祝福します。あなたは永遠の神、永遠のお方、私たちと向き合い、永久までも、その向き合いを外すことがないお方。私たちは、あなたの中に私たちの大切なものを見つけました。私たちの生きる人生の一瞬一瞬に、必要な命を見つけました。

主よ私たちは今、私たちの自分の魂に、自分の心に、あなたの御言葉を響かせていますから、私たちの心が、思いが、過去がどうであったにせよ、私たちは自分の魂に命じます。魂よ、柔和であれ、柔らかくあれ、魂よ、主の向き合いと共に、主の息とともに生きよ。我らは今日の日にそれを始める。我らは、今日のうちに主との霊の 一つとされ、一致とされ、その相互内在を自分のうちに開き解き放つ、そのことを決心します。そして我々、互いの内に、その恵みを愛を解き放ちます。根底から我々の存在の初めから、根底から、我々は造り変えられているのです。それを認めようとしない固なら、魂よ、去れ。それを打ち砕く。私たちは、この招かれたとの歩みの中に楽しみ喜びます。ハレルヤ！主よ。あなたの築かれる御国の中で、これを。主イエスと父との御国の名の中で、これを宣言し、解き放ちます。主よ感謝します。ハレルヤ！アーメン！

それでは 10 月のキングダムセミナーこれで終わります。どうぞ。本の中にあること、またはまた録音が送られると思います。どうぞ引き続きお巡らしてください。